

金日成匪討伐詳報

步兵第七團本部

一、討伐開始前に於ける狀況

本期討伐開始以來歩兵第七團擔任地區に於ける匪團は著しく東部即ち撫松縣南部、大營―西崗山以南、臨撫縣境龍崗以北地區に移動し殊に臨江東部及長白西北方面よりも亦散匪の漸次北上しつつあるの通報あり、依て搜索に或は情報蒐集に其の重點を臨撫街道以東に集注せり。最近に於ける重要匪情を擧ぐれば

(イ) 十月一日第二連は東楊木頂子に於て紅軍劉參謀長匪約五〇山寨にあるを發見之を攻撃潰走せしめ當時上尉の肩章を附したる鮮匪一を斃し山寨二十四ヶ所を燒却

(ロ) 十月二十四日延州中尉の指揮する二ヶ排は金川縣工作班及縣警察と協力し東楊木頂子に於て山寨に在りし股副

官匪團を奇襲之を潰走せしむ。該山寨の入口の柱に墨痕鮮かに東北抗日聯合軍第一路第二軍總司令部副官處と記しありし點より判斷し相當有力匪團の存在するを窺はる。

(ハ) 十一月四日騎兵第三團部隊は不詳紅軍匪約五〇と大營南方一〇軒標高一、〇二八に於て交戦之を東北方に擊退す

(ニ) 十一月五日より六日に亘り萬順匪の一部は大蚊子溝附近に於て大豆收穫中の農民より約二石を掠奪し西崗(圖上)大營東南十五軒、前川(圖)西方約六軒附近に隱匿したるとの報あり。

(ホ) 十一月六日歩兵第六團根本連は大營東方八軒九八高地附近に於て幾多の山寨を覆滅多數の糧穀を鹵獲す。

(ヘ) 十一月八日夕刻萬順匪數十名は大營北方約六軒湯河口子を経て東南方西崗方面に移動。

(ト) 十一月九日午前十一時西南岔(大營南方二〇軒)南方約三軒老嶺(標高九八七)南側に於て延州中尉の指揮する二ヶ排は紅軍匪(鮮人約半數及鮮女一を含み輕機二を有す)約六、七十名と交戦之を東方に擊退す

殊に本月初旬來西部地區(蒙江縣灣溝及其の南方爆馬川附近)には何等見るべき匪情なく、又教導歩兵團第二營密偵の紅軍に拉致せられ其の歸來提供せる情報に依れば金日成は各部下匪團に指令し約十日分の糧秣を携行、西崗南方地區(地點不詳)に集結すべく命じたりと。

以上の諸情報綜合するに紅軍匪の有力地盤(潜伏地帯)は撫松縣南部地區に在るものと判斷するに至れり

二、討伐計畫

團長は部下主力を以て撫松南部地區に於ける匪團を索めて掃蕩すべく其の計畫の第一着手として

(一) 十一月十二日灣溝第二機關銃連及松樹鎮第六連を小營子に集結し第二連を併せ團附中校をして之を指揮せしめ一游擊隊を編成す。

(二) 西南岔孫端中第一營長をして第一第三連を指揮せしめ一游擊隊を編成

(三) 兩部隊の掃蕩地域は概ね恒道河子―王朋嶺を連する線(含み)以南を係游擊隊に、同線(含む)以北を團附中校兼游擊隊に擔任せしむべく先づ其の企圖を示せり。

時恰も在西南岔第一營長は附近農民より紅軍匪約百は西楊木頂子(圖上)西南岔東方十軒一、三三一高地附近)より東楊木頂子(東北方一、一二四高地)方向に移動したるの報に接し、營長は獨

斷直ちに匪跡を索めて掃蕩すべく左の命令を下せり。

康德四年十一月十二日午後十一時、於西南岔營本部

(一) 紅軍匪約百は本十二日早朝西楊木頂子より東楊木頂子に向ひ移動せり。
(二) 孫部隊は該匪團を索めて之を捕捉殲滅せんとす。

(三) 第一連(缺一排)は明十三日午前四時三十分西南岔出發先づ老坡口に到り、爾後小西南岔より東楊木頂子に向ひ前進し匪を索めて討伐すべし。

(四) 第二連(缺一排)は明十三日午前五時三十分小營子出發王朋嶺―標高九七六高地附近に前進、爾後東楊木頂子に向ひ匪を索めて討伐すべし。

(五) 第三連(缺一排)は予の直接指揮を以て明十三日午前五時西南岔出發東楊木頂子に向ひ前進、匪團を索めて討伐す。

(六) 予は午前十時東楊木頂子に到る第一營長 孫(端中)少 校 營長は右決心を團長に報告すると共に

團長に對し小營子部隊の前進に伴ふ該地の警備として一ヶ排を十三日早朝到着せしむる如く意見具申せり。

三、各部隊の行動及戰間經過

◎其一、營主力の行動

(一) 第一連(缺一排) 十三日午前四時三十分西南岔を出發午前十時老坡口を通過小西南岔に到り東、西楊木頂子中間鞍部を経て東楊木頂子西側斜面に到りし頃東北方に銃聲を聞く、時午後二時頃直ちに方向を轉じて銃聲する地區に急進したるも途中密林地帯にして行動意の如くならず、午後五時過ぎ營長の指揮部隊に合せり。

(二) 營長の直接指揮する第三連(缺一排)は十三日午前五時西南岔出發午前十時東楊木頂子西端、山麓に到着したる際十二日夜半西南岔出發匪情を得て掃蕩に向へる該地警察馬慶祥巡官以下三五名の一隊と合す。

茲に於て營長は左の命令を下す
口頭命令の要旨

第三連長は部下三名を指揮し中央隊となり東楊木頂子頂上を経て東側山麓に向ひ前進す。

警察隊は右隊となり東楊木頂子南斜面を搜索しつゝ東側山麓に向ひ前進すべし。

本部及第三連の爾余は左隊となり東楊木頂子北側斜面を搜索しつゝ東側山麓に向ひ前進す。

部隊は三連隊を以て十時十分頃前進を起し約二十分の後左隊たる孫營長の指揮する部隊(一五名)は東北方九七六高地方面に銃聲を聞き之に向ひ急進中十時四十分頃輕機一を有する二十數名の匪團を發見、直ちに攻撃に移りたるも匪は我が寡勢を見て頑強に抵抗せしも交戦約二時間の後遂に之を東南方に撃退更に之を追撃す。

中央隊たる第三連は午前十時四十分頃東楊木頂子山頂を通過したる際匪の歩哨三名を發見したるも何等抵抗することなく東南方に遁走したるを以て之が足跡を追ひ前進中午後〇時三十分頃再

び匪の歩哨二名に遭遇す。

尙其の後方に四五十名あるを發見し直ちに攻撃を開始せるも匪は山腹を占領し地の利を占め、殊に輕機を以て掃射を加へ我が攻撃意の如くならざりしも、交戦約二時間の後匪を東南方に潰亂せしめ足跡を求めて追撃前進中午後四時三十分頃營本部と合す。

右隊たる警察隊は前進中銃聲を聞きたるも地形に束縛せられ迂迴中進路を誤り本戰團には参加し得ず。午後五時漸く東楊木頂子東山麓に於て營長の部隊に合したるも警察隊は爾後の行動準備のため西南谷に歸還す。

部隊は同夜東楊木頂子に露營す斯くする中第一連部隊も到着此處に集結せり。交戦狀況要圖第一の如し

同夜營長は左の要旨の命令を下す。

命令の要旨

(一) 第一連は明十四日午前六時三十分露營地出發王朋嶺を経て北方一、〇六五高地に向ひ前進匪を求めて掃蕩すべし。

(二) 第三連は予直接之を指揮し標高九七六高地に向ひ前進匪跡を求めて掃蕩す。兩部隊共特に第二連との連絡に注意するを要す。

第一連は十四日午前六時三十分行動を起し掃蕩を實施しつゝ午後三時標高一、〇六五高地北方約三軒(人參畑)に於て匪の隱匿せる印刷用紙多數を押収更に前進北方標高八八七(圖上板石堡子)附近に露營す。

營主力は十四日午前八時出發標高八七六(圖上小西南谷西側)に於て午前九時三十分頃第二連と合す。

小營子警備のため團より派遣せる第六連の一ヶ排は十三日午前五時五十分到着其の任務に就けり。

◎其二、第二連(匪首擊殺)の行動

第二連(輕機二を附し一ヶ排を欠き別に道案内の農夫四を同行)は十三日午前五時三十分小營子出發王朋嶺に於て匪の足

面なりき。

當時連長は匪の虚隙あるを見て匪を偽謗誘致之を逮捕せんと決意し先づ歩哨の未だ感知せざる部下を誤認せしむる如くし且左後方に散開(手眞似にて)せしめ匪歩哨と左の問答を交す。

歩哨

你那兒隊

連長

我是萬順、聯合軍第二隊

你是那兒隊

歩哨

第二師、金師令

你是聯合軍、那隊上來個隊長會見

連長

你往下來、隨即會合

尙連長は語を續けて「目下滿匪(滿軍のこと)は附近到る所に横行しあり、御前が滿匪であつて俺を瞞し撃ちにすゝる氣ではないか」

終るや歩哨は直ちに休憩中の匪首に告ぐるや匪首は當差四名(内一名は鮮人)を隨へ泰然として降り來て連長の面前

に近づきつゝ左の問答をなせり。

匪首

你那兒隊

連長

(連長は發音により鮮人なること縱令金日成ならずとも相當の頭目ならんと感知す)

我是萬順

匪首

(期待に副ひたるものの如く満足せる態度を以て右指の四本を折り握り拇指を立て胸を前に揚げ「大人頂好といふ様なやり方」手振りをして)

萬順好來了

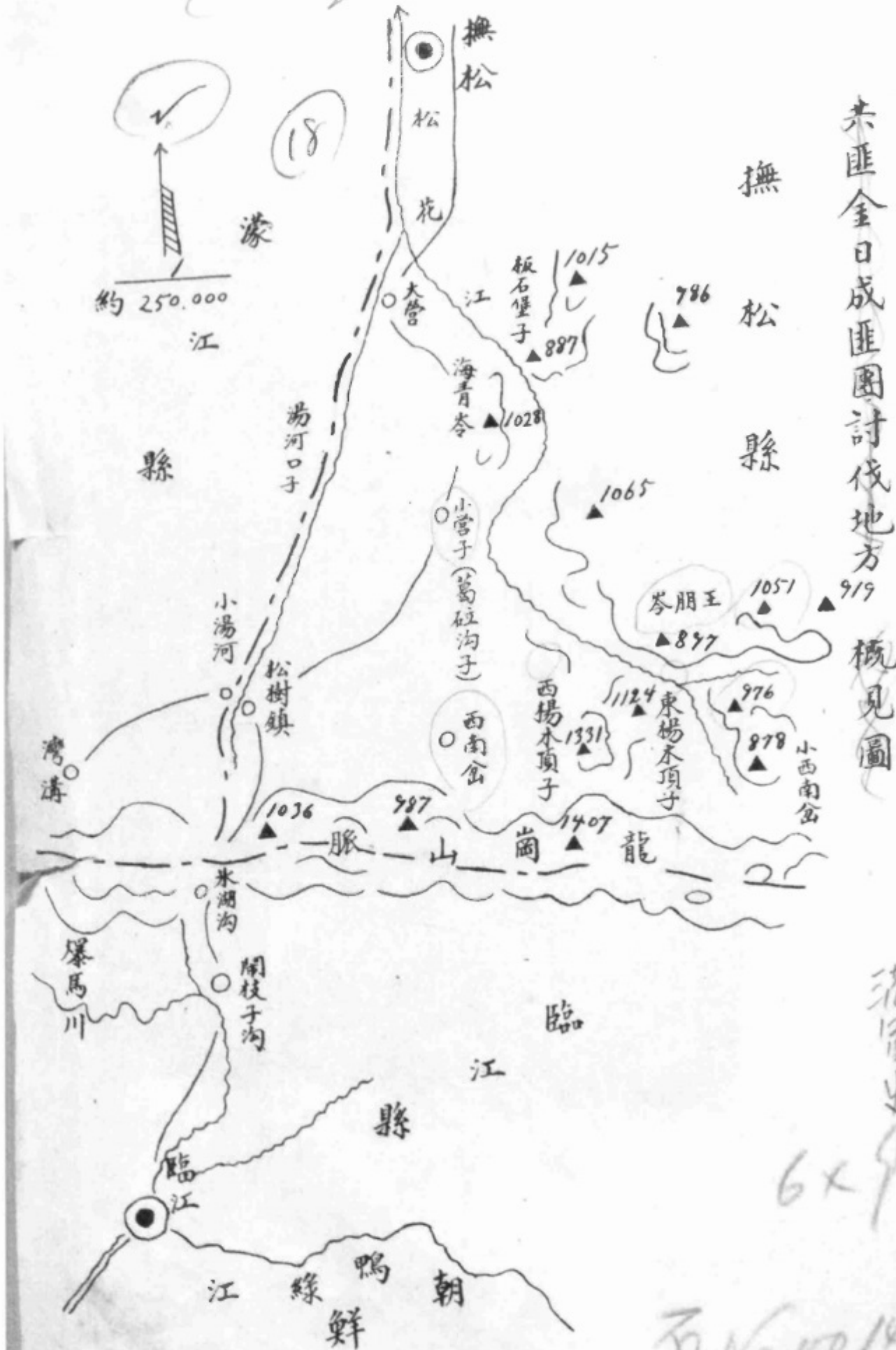
と答へながら約二十米に接近したる際軍服の襟字(亞利比亞數字72「七團」の第二連の意)あるに氣付き

「不好、滿匪(滿軍のこと)來了」

と叫び身を轉じ匪首らんとする其の瞬間連長は豫め準備せる小銃を以て一撃の下に之を斃したるや部隊は一齊に猛射を匪の主力に傾注せり。

當時匪首に隨行せる當差四名は死體を

金司令討伐地方要図



未匪金日成匪團討伐地方概見圖

搬送せんとしたるも忽ちにして其の二名を斃したるため残餘の二名は、「金師令死了、金師令死了」と叫びつゝ辛ふじて遁走せり。

匪團は部隊の一齊射撃に周章狼狽しながら輕機二を以て我に猛烈なる射撃を送り前進意の如くならざると寡を見て猛烈なる逆襲に轉じ來れり。

然れども部隊は連長の勇敢なる態度に益々沈着反撃を加へたるも匪は地の利を占めあると衆を待み頑強に抵抗し此處に一進一退匪の逆襲三次に及び匪首の死體を中間に横たへ激戦約五時間當時最左翼に在りし少士劉學勤は部下七名を叱咤激勵し匪の左側背に向ひ猛烈果敢に攻撃前進したる爲め匪は右翼を席卷せられ動搖の徴を呈したるを以て連長は大聲を以て援隊の來着せる如く「第一連は左」「第三連は右」と叫び突撃を命ぜし爲め匪は忽ち東南方に算を亂して遁走、部隊は漸く山頂を占領するを得たり。時に午後三時頃なり

五、討伐效果

- (1) 十三日孫營長の指揮する十四名の戦闘に於て、匪死一、傷匪二、(目撃)
 - (2) 十三日第三連主力戦闘に於て匪死二、傷匪數名ある見込
 - (3) 十三日第二連(呂永發)の戦闘に於て、匪遺棄死體五、内匪首金日成を含む、傷匪相當ある見込
- 幽獲 小銃一、同彈一五八、拳銃サツク二、同彈一八

六、射耗彈

種類	部隊	營主力	第三連	第二連	計
小銃	二〇	二八	一六四	二二三	
輕機	〇	二六〇	八五〇	一〇九〇	
拳銃	八	七	四八	六三	

(拳銃サツクは金師令當差(死體二)の携行せるものにして拳銃は交戦中匪が奪ひ去れるものなり。

子彈帶四、硫黃三斤(部落襲撃用)

背負袋一、飯盒二、紅軍(赤章あり)戰闘帽三、包米一石、大豆五斗、綠豆粉三斗急造山藥二棟、石臼一個

我損害

准尉蔡金章左頬擦過銃創(輕)

銃劍身一、輕機抽筒螺子破損一、因に匪首金日成なることは彼が昨年六月及八月の二回小營子部落を襲撃したる際部落民を糾合講演(宣傳)したるに依り其八相を詳知せる多數土民の證言あり又撃斃したる時當差の「金師令死了」の自然的連呼に依り證明せらる

孫營第一營指揮部掃蕩要圖

於十月三十日自午前十時正至午頃

第一圖要

區地戰鬥連第二

(照參第一圖要)

